

駿府で歴史が決まった!?

江戸時代の終わり頃、薩摩藩（現在の鹿児島）と長州藩（現在の山口）が中心になり、幕府を倒して新しい政府をつくって、外国と対等に渡り合える強い日本にしたいと考えました。

第15代将軍徳川慶喜は1867年に将軍の座を返上し、政権を朝廷に返す「大政奉還」を行いました。これで徳川家康から始まり、260年以上続いた江戸幕府は終わりを迎えました。

その後、幕府を支持する人と、新しい政府との間で戦が起こります。京都近くの鳥羽・伏見の戦いで勝利した新政府軍は西郷隆盛を参謀とする東征軍（官軍）を編成し、江戸城にいる慶喜を厳しく処罰しようとして東海道を東へ進みました。

そこへ慶喜の命令を受けて駿河に来たのが山岡鉄舟（鉄太郎）です。清水の次郎長を指導したことも有名な山岡は、西郷と1868年3月9日、現在の静岡市葵区伝馬町で会見しました。戦を回避し、主君である慶喜を思う山岡の姿勢に西郷は心の

を打たれました。この5日後に江戸・薩摩藩邸で行なわれた勝海舟と西郷の会談へとつながり、江戸城への攻撃は回避されました。駿府で行われた山岡と西郷の談判により、勝と西郷の歴史的会見の内容はほとんど決まっていたのです。江戸と京都を結ぶ東海道のほぼ中央に位置する駿府が歴史の重要な場面に登場しているのです。



西郷・山岡会見の史跡

静岡市葵区伝馬町に建つ西郷（写真左）、山岡（写真右）会見の史跡

山岡鉄太郎西上之図（錦絵、静岡市伝馬町報徳社蔵）

監修：近江俊秀・文化庁文化財第二課主任文化財調査官、中村羊一郎・静岡市歴史博物館長、本郷和人・東京大史料編纂所教授